

Ⅱ. ま と め

信濃町は長野県の北端の県境に位置し、北信五岳（黒姫、斑尾、妙高、飯綱、戸隠）の雄大な山並みと、高原に囲まれた野尻湖の優れた自然環境を有する地域であり、全国でも有数の豪雪地帯である。また、1年を通して野尻湖、黒姫高原、斑尾高原では四季折々の自然を生かした高原型リゾート地を形成するとともに、ナウマンゾウの化石を代表する貴重な遺跡群、俳人小林一茶の史跡など多くの観光客が訪れている。

町の産業は農業と観光が経済活動の主軸を担っており山々に囲まれた平坦地では稲作を中心とした農用地が広がっている。

1. 人 口

令和2年の総人口は7,739人で、平成12年の10,391人と比較して、2,652人(25.5%)減少しており、特に平成17年以降の減少幅が大きい。年齢別構成比は平成12年から令和2年までの20年間で、年少人口は12.3%から8.5%に減少し、老年人口は27.5%から44.1%まで増加している。国立社会保障・人口問題研究所による将来人口の推計をみると令和32年には、総人口は3,810人にまで減少する。構成比では、年少人口が5.2%に減少し、老年人口は57.8%まで増加すると推計され、少子高齢化が懸念される。

人口増減の内訳は、自然動態は平成12年以降は死亡数が出生数を上回り、減少が続いている。社会動態も平成12年以降は転入数より転出数が上回っており、自然減と合わせて人口の減少をもたらしている。

2. 産 業

信濃町の令和2年の就業人口は4,115人で総人口比は53.2%となっている。平成12年の就業人口と比較すると、1,553人減少しており、総人口比でも1.3%減少している。令和2年の産業別就業人口を平成12年と比較すると、第1次産業では2.0%、第3次産業は6.5%増加している一方で、第2次産業では9.2%減少している。林業・狩猟業と不動産業では就業者数は増加しているが、卸売業・小売業では減少している。

工業出荷額は、平成8年の545億5500万円をピークに減少傾向に転じ、平成13年には平成8年の54.7%に落ち込み298億2900万円にとどまっていた。平成15年から平成19年までは増加傾向へ転じたが、以降平成25年の228億3700万円まで減少を続け、令和2年の246億2800万円に至るまで横ばい傾向となっている。

商業販売額は平成6年をピークに年々減少傾向にあり、平成16年の85億6700万円まで減少していたが、以降は増加と減少を繰り返している。令和3年の商業販売額は51億6800万円となっている。

3. 土地利用

信濃町の総面積14,930haに対して、自然的土地利用面積が13,519.91haで全体の90.6%を占め、都市的土地利用面積は1,410.1ha(9.4%)である。自然的土地利用のうち、山林が80.6%(10,897.7ha)を占めている。

農地転用状況は令和元年から令和5年の5年間で10.2ha(68件)である。転用用途別では住宅用地が3.4ha(35件)、工業用地が1.5ha(5件)、その他5.2ha(27件)、公共用地が1件となっている。

令和元年から令和5年までの5年間の新築件数は175件(年平均35件)である。用途地域内38件の内、柏原地区は17件で44.7%、野尻地区が12件で31.6%、古間地区が9件で23.7%となっている。用途地域外は137件で全体の78.3%を占めている。

4. 建物

都市計画区域内の区域区分ごとの建物用途別棟数、建築面積、延床面積を見ると、住宅、農林漁業用施設の棟数が多く、建築面積、延床面積については住宅と工場が多いことが分かる。

建物の階数別の棟数では、2階建てまでの建物が全棟数の大部分を占めている。構造については木造の建物が8,175棟で67.7%、残りの32.3%が鉄筋コンクリート造、非木造の建物となっている。

建物の建築年別にみると、昭和56年以前に建てられた建物が5,478棟(45.4%)で半数弱の建物が旧耐震基準で建てられていることが分かる。

5. 都市施設

平成2年6月に上信越自動車道信濃町ICの整備等に伴う交通流動の変化に対応するため、野尻バイパス線、柏原幹線1号、2号、黒姫駅前線、柏原中央線、熊倉上町線の6路線と黒姫駅前広場が追加され、12路線と黒姫駅前広場が都市計画決定されている。

野尻バイパス線(第二工区4.2km)が平成15年に供用開始、また平成19年から第一工区1.0kmの事業化が進められ、平成29年11月に完成した。

平成元年9月に汚物処理場、平成6年12月にごみ焼却場が都市計画決定され、ともに整備済である。公共下水道については、野尻・黒姫高原地区を整備するため野尻処理区及び北部浄化センターが都市計画決定され、整備が完了している。柏原、古間市街地周辺及び富士里地区の一部を整備するため、柏原処理区及び柏原浄化センターが都市計画決定された。

6. 交通

令和3年における平日12時間交通量は、国道18号において最大7,033台である。一般道路では、信濃信州線の2,040台が最も多く、信濃斑尾高原線の242台が最も少ない。高速道路では、上信越自動車道で6,194台となっている。

大型車混入率については、国道18号では最大22.8%、一般道路では古間停車場野尻線の16.4%が最も高く、長野荒瀬原線の3.5%が最も低い。高速道路では、上信越自動車道で31.6%となっている。

混雑度は、国道18号では最大0.76、一般道路では、黒姫停車場線の0.48が最も高く、信濃斑尾高原線の0.05が最も低い。高速道路では上信越自動車道で0.23となっている。一般国道、一般道路、高速道路とも1.00を超える路線はなく混雑することなく円滑に走行ができる。

混雑時平均旅行速度については、国道18号の56.7km/hが最も速く、杉野沢黒姫停車場線の12.5km/hが最も遅い結果となっている。

黒姫駅の乗降人員は減少傾向が続き、令和4年には430人で、平成9年と比較すると1,180人(73.3%)の大幅な減少となっている。

8. 自然的環境等

都市計画区域内の現存緑地の状況は、樹林地が4,234.8ha(60.2%)、農地が1,724.6ha(24.5%)、草地が566.4ha(8.1%)、水面が507.0ha(7.2%)となっている。